

オックスファム・ジャパン 気候変動ワークショップ

カメラ婦人の店はなぜ閉店したのか？



GROW
FOOD. LIFE. PLANET.


OXFAM
Japan

目次

はじめに	2
ワークショップ概要	3
ワークショップの進め方	4
冒頭説明	5
セッション① 閉店の理由を考える	6
セッション② 解決策を考える	7
セッション③ 一人ひとりにできることを考える	8
まとめ	9
オックスファムへの連絡先	10
アクションを起こしましょう！	10
参考資料・ホームページ	10
イベント報告用紙	11
登録用紙	12



はじめに

このワークショップでは「カメラ婦人の店はなぜ閉店したのか？」という問いを考えることによって、気候変動における問題の本質や構造を浮き彫りにし、気候変動によって生じる個々の課題に対して、一人ひとりがどう取り組むことができるのかを考えます。ワークショップでは、情報が記載されたカードが配られ、その中から事実を読み解いていきます。カードの中には重要性の高い情報が記載されたものだけでなく、実質的に関係の薄い情報が記載されているカードもあり、参加者には限られた時間の中で重要な情報を判別することが求められます。

参加者はグループをつくり、与えられた情報をヒントに、それぞれの質問に対する答えを考えます。また、ただ考えるだけでなく、他のグループに対して、自分たちの考えを発表し、話し合いを通じた合意を目指すプロセスを体験し、そこから学ぶことも期待されます。

また、他のグループの発表を聞いて感じたことや発見したことを話し合う機会を発表後に設けることで、各参加者の感想や気づきの経験を共有することが望ましいでしょう。



途上国では多くの女性が果物や作物の売買から生計を立てています。

*このワークショップは、オックスファム・イギリスが制作した教材を元にオックスファム・ユースグループに所属する武関柴乃さん、鈴木涼子さん、山口こずえさんの協力によって、作成されました。

*オックスファム・ユースグループは、オックスファムの理念に賛同する学生と社会人によって構成されるボランティアグループです。

ワークショップ概要

- 目的** 気候変動が途上国の人々の生活に与えている影響を理解し、その解決策として一人ひとりができることを考える。
- 内容** ガンビアとイギリスという二カ国の日常生活から気候変動の構造を理解し、気候変動の影響を受ける途上国の人々の状況を改善するためにどのような解決策が有効で、私たち一人ひとりには何ができるのかを考えます。
- 定員** 10名～50名程度 *人数が50名以上になる場合は共有方法を変更する必要があります。
- 時間** 90分程度

【必要な役割】

- ディレクター** ワークショップの運営責任者です。ワークショップ内のセッション時間が予定よりも超過した際はタイムキーパーとファシリテーターに指示を出し、どの部分を省略するのか、全体を延長するのかなど決めます。ディレクターは、ファシリテーターとの兼任はしないほうがよいでしょう。
- ファシリテーター** 司会及びワークショップの説明を行います。
- タイムキーパー** 時間通りにワークショップが続いているか、ファシリテーターに時間を知らせる役割です。ディレクターからセッション時間の変更連絡があった場合は、その指示に従ってください。
- 記録** ワークショップ中に写真やビデオ撮影を行います。
- 受付・会計** 参加者の受付を行います。参加費を集める場合は、受付と会計担当をおきましょう。また、参加費の中から経費を除いた分をオックスファム・ジャパンへの寄付にすることもできます。その場合は、下記の寄付先までご入金いただき、オックスファム・ジャパン(TEL. 03-3834-1556)までご連絡ください。

オックスファム・ジャパン寄付先

金融機関名	ゆうちょ銀行
口座番号	00140-6-53804
加入者名	OxfamJapan
通信欄	A:ご希望の寄付種類がある場合は、タイトル名を記載してください。特に記載のない場合は一般寄付として取り扱いを行います。寄付の種類に関しては、オックスファム・ジャパンのウェブサイトをご確認ください。(http://oxf.am/Z5hG) B:領収書がご入用の方は、「領収書必要」とご記入ください。

【配布資料】

【セッション 1】

セッション 1 配布資料
<閉店の理由>カード

【セッション 2】

セッション 2 配布資料
<解決策を考えよう>カード

【セッション 3】

セッション 3 配布資料
<一人ひとりができること>カード

ワークショップの進め方

本ワークショップの一般的な流れを記載します。状況に応じて、それぞれの時間は自由に変えてください。

時間	内容	キーポイント
00:00	はじめの挨拶	
00:05	冒頭説明 ワークショップの目的を共有します。	個人に起こったことを相対化することで、気候変動の世界的な関係性を理解するという主旨を伝える。
00:10	セッション① 閉店の理由を考える 様々な情報が記載されたカードが配られ、その情報をもとにカメラ婦人のお店が閉店した理由を考えます。 -話し合い(10~15分) -発表(各グループ1分程度) -気づきの共有(数分)	気づきの共有では、参加者に他のグループの発表から気づいたことを全体に共有してもらいます。 本セッションでは、二カ国で起こったことつながり気候変動の構造を理解します。
00:30	セッション② 解決策を考える <u>カメラ婦人の状況を変えるための解決策</u> が記載されたカードが配られ、その解決策の有効性を考えます。 -解決策の分類(5分) -話し合い(10分程度) -発表(各グループ1分程度) -グループ内での気づきの共有(数分) -全体での気づきの共有(数分)	それぞれの解決策の特徴と目的であるカメラ婦人の状況の改善につながるかを考える。 本セッションでは、気候変動の人々の生活への影響とその解決策を考えます。
00:55	セッション③ 一人ひとりにできることを考える 気候変動によって生じる諸問題を解決するために、一人ひとりにできることを考えます。 -気候変動への対策-緩和と適応-(5分程度) -アクションの分類(5分) -優先順位付け(10分) -発表(各グループ1分程度) -グループ内での気づきの共有・意見の交換(数分) -全体での気づきの共有・意見の交換(数分)	本質的に課題を解決するために必要なことは何かを考えます。 本セッションでは先進国に住む一人ひとりができること、先進国に住む私たちだからこそ、できることを考えます。
01:20	まとめ	上映が可能な場合は、オックスファムの気候変動に関する映像を上映。(youtube から再生可能)
01:25	終わりの挨拶	
01:30	終了	

冒頭説明

冒頭説明では、ワークショップの目的と流れ、オックスファムについての説明を行い、留意事項を伝えるようにしましょう。

*本ワークショップはグループ作業を行うため、受付の際にグループ分け行えるようにしましょう。その際に男女比や年齢などに偏りがないように配慮すると良いでしょう。適宜、グループ内で自己紹介をしてもらいましょう。

【ワークショップの目的】

「このワークショップは、気候変動が途上国の人々の生活に与えている影響を理解し、その解決策として一人ひとりができることを考えることを目的に作られました。参加者の皆さまには、これからアフリカのガンビアにて商店を営んでいたカメラ婦人のお店が閉店した理由を探っていただきます。カメラ婦人という一個人に起こったことから、気候変動の構造、解決策、そのために私たち一人ひとりができることを考えていきます。」

【オックスファムについて】

「本ワークショップはオックスファム・イギリスが作成した気候変動に関するワークショップをオックスファム・ジャパンが編集したものです。オックスファムは、1942年にイギリスのオックスフォードで設立され、世界90カ国以上で活動する国際協力団体です。世界17の国・地域に拠点を置き、貧困を克服しようとする人々を支援し、貧困を生み出す状況を変えるために活動しています。オックスファム・ジャパンは2003年に設立され、アドボカシー（政策提言）・キャンペーン、長期開発支援、緊急人道支援、国内啓発事業を通して、貧困のない世界の実現を目指します。」

【留意事項】

写真撮影などを行う場合は、ウェブサイトなどで活動報告のために使用する可能性があることを伝え、差し障りがある場合は、スタッフまで連絡をいただくようにしましょう。

*ウェブサイトなどでご紹介することもありますので、イベント終了後に、オックスファム・ジャパンに写真とともに実施報告をお送りください。

宛先 oxfaminfo@oxfam.jp *件名を「気候変動ワークショップ実施報告」としてください。

セッション① 閉店の理由を考える

本セッションでは、まず【閉店の理由】カードを配布します。そのカードにある情報をもとに、カメラ婦人のお店が閉店した理由をグループごとに考えていただきます。

カードの情報が全て必要な情報とは限りません。また、時間は限られているので、参加者は情報の判別を行うことが求められます。

また、話し合いの結果を発表してもらうことを伝えておき、グループごとに発表の準備をするように促しましょう。

▼話し合い *メモ用に白紙の紙も配布

カードを配布し、「なぜカメラ婦人のお店が閉店したのか」を考えてもらってください。(10~15分)
グループごとに発表する必要があることをあらかじめ伝えておきましょう。

▼発表(数分)

グループ発表後、確認のために、セッション 1 配布資料を配布し、全体で空欄を埋めましょう。

▼気づきの共有(数分)

セッション終了時には、気候変動と日本の関係について必ず説明するようにしましょう。

「このワークショップはオックスファム・イギリスによって作成され、イギリスとガンビアの二カ国を対象としています。しかし、これはイギリスとガンビアだけの問題ではありません。気候変動の原因とされる温室効果ガスであるCO₂(二酸化炭素)の日本人一人当たりの排出量は年間10.23トン¹で、イギリスの排出量よりも多い量となっています。またCO₂の国別排出量の割合を見ても、イギリスは1.8%、日本は4.0%(2008年)²であり、私たち日本人にとってもガンビアにおける気候変動の影響に大きく関係があるといえます。」



¹ 出展 United Nations Statistics Division http://unstats.un.org/unsd/environment/air_co2_emissions.htm

² 出展 EDMC/エネルギー・経済統計要覧 2011年版

セッション② 解決策を考える

本セッションでは、解決案が記載された【解決策を考えよう】カードを用いて、ディスカッションを行います。解決案をひとつひとつ精査し、それが本当にカメラ婦人の状況を解決するかを考えます。

▼項目ごとの分類(カードと資料[セッション 2 配布資料]の配布)

はじめに、カードを資料にある基準に従って分類してみてください。(5分)

*なお自分で解決案を考え、分類するカテゴリを加えてもよいでしょう。

▼ディスカッションポイントにそって、グループごとに話し合います。

時間を意識して話し合いをするように促します。(10分)

*グループごとに結果を発表してもらうことをあらかじめ伝えておくともよいでしょう。

▼発表(各グループ 1分程度)

▼グループ内での気づきの共有(数分)

▼全体での気づきの共有(数分)

セッション終了時には、ワークショップは気候変動問題における構造に関する理解を促すものであり、個々人の行動と結果に直接的な因果関係はないことを必ず説明するようにしましょう。

「この気候変動の世界的な構造を示すためにシャフラツとカメラ婦人を題材にしていますが、シャフラツの行動は直接的にカメラ婦人の店の閉店につながったわけではありませんし、それを意図したものでもありません。先進国に住む個人の例としてシャフラツは存在しています。私たちは、日常生活や企業活動などを通じて CO2 を排出し、それが気候変動の要因となっています。」



セッション③ 一人ひとりにできることを考える

本セッションでは、解決策を実施するために私たち一人ひとりが行えるアクションを考えます。その前提となる2つの情報を共有してください。

(a). 気候変動対策の2つの柱: 緩和と適応

「気候変動の影響からは誰も逃れることはできません。全ての人の未来に脅威となります。しかし、それがすぐに影響するのは世界の貧困層、特にカメラ婦人のような女性です。CO2 排出の大部分は先進国によるものですが、当分の間、その影響をより大きく受けるのは途上国の人々です。気候変動への対策を考える上で、知っておくべき2つの概念を説明します。それは緩和と適応です。」

緩和

二酸化炭素の排出を削減するための行動を指します。CO2 排出の多くは先進国の活動によるものです。そのことからCO2削減の責務は先進国政府とその市民にあるといえます。

適応

家を洪水被害の及ばない高い場所に建てるなど、気候変動による影響に対処した行動を指します。適応策は、気候変動による具体的脅威への対応として大変重要ですが、適応策だけでは気候変動の進行を遅らせることはできません。また、気候変動の原因となるCO2排出の大部分は先進国によるものである一方で、気候変動の影響を受けている人の多くが途上国(脆弱国)に住んでいます。このことから、先進国は適応に必要な資金を支援する責務があるといえます。

(b). 各国のCO2排出量

イギリス、ガンビア、日本のCO2排出量の違いについて共有してください。

「配布資料には、イギリス、ガンビア、日本などの一人当たりのCO2排出量が記載されています。イギリス人の二酸化炭素排出量はガンビアのおよそ36倍、日本人の排出量はガンビア人の約41倍です。」

▼緩和と適応の説明

[セッション3配布資料]を配り、緩和と適応に関する説明をします。(5分)

▼アクションの分類

【一人ひとりができること】カードの配布。カードを「個々のライフスタイルの変化に関わるアクション」(節電など)と「社会への働きかけを必要とするアクション」(例 地方自治体への働きかけ)に分類する。(5分)

そのうえで、どのアクションが最もカメラ婦人の状況を改善することができるのかを考えます。

▼優先順位付け(10分)

配られたカードをダイヤモンド上に並べ、最も重要だと思うカードを一番目に1枚、次に2枚、そして3枚と優先順位が高いと思うカードを選んで並べます。(10分)

その際に選んだ理由を述べるように促してください。また、発表の準備をグループへ促しましょう。

▼発表(各グループ1分程度)

▼グループ内での気づきの共有・意見の交換(数分)

▼全体での気づきの共有・意見の交換(数分)

まとめ

最後に、それぞれのセッションで学んだこと、出された意見を振り返り、気候変動の構造と私たちが行動することの重要性を改めて、確認してください。オックスファム・ジャパンがキャンペーン(署名など)を展開している場合は、参加のよびかけも行ってください。

また、「イギリスとガンビアの話」に留まらないよう、気候変動と日本の関係性に随時、触れるようにしてください。

設備がある場合は、オックスファムが作成した気候変動に関する映像を上映することを推奨します。

ママタズの物語-気候正義を求めて-(バングラデシュ)

<http://youtu.be/M2NBM7ShDxo>



オックスファムへの連絡先

メールアドレス

ワークショップの詳細については、以下の連絡先までお問い合わせください。
(メールの件名は「気候変動ワークショップ」としてください。)

oxfaminfo@oxfam.jp

ホームページ

<http://www.oxfam.jp>

住所

〒110-0005

東京都台東区上野 5-3-4 クリエイティブ One 秋葉原 7F

特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン キャンペーン担当

TEL: 03-3834-1556 FAX: 03-3834-1025

アクションを起こしましょう!

世界の貧困を克服しようとする思いをさらに広めるために、簡単かつ重要な活動例をご紹介します。

- ① ワークショップの成果を広めよう!
「イベント報告用紙」(P.11)へ必要事項を記入して、オックスファムまでお送りください。いただいた感想などは、オックスファムのウェブサイトなどでご紹介させていただく場合があります。
*メールの場合は、必要事項と同じ項目をお送りください。
- ② オックスファム・ジャパンのメールマガジンを参加者に紹介して、何が起きているかを知る機会を増やそう!
「登録用紙」を印刷して、イベント終了時に個人情報を集めましょう。いただいた連絡先には、オックスファム・ジャパンからイベントやアクションに関する情報をメールマガジン(月2回程度)にてお知らせします。
- ③ 大学や学校で活動を始めよう!
オックスファム・ジャパンのユースプログラムに参加し、キャンパスや学校から世界を変えましょう。
詳しくは、ウェブサイトをごらんください。(http://oxf.am/Z5hf)
- ④ 寄付をしよう!
イベントを行って寄付を集めたり、オックスファム・ショップで買い物をしたり、物品を寄付することで支援することができます。
オックスファム・ショップ (<https://shop.oxfam.jp>)

参考資料・ホームページ

- ・オックスファム・ジャパン (<http://www.oxfam.jp>)
- ・気候ネットワーク (<http://www.kiconet.org/index.html>)
- ・環境省-地球環境・国際協力- (<http://www.env.go.jp/earth>)

登録用紙

オックスファム・ジャパンの活動に参加し、貧困と飢餓、不公正を克服するためのアクションに参加しましょう。
以下のリストに連絡先をご記入いただいた方には、オックスファム・ジャパンからメールマガジンをお送りします。

お名前(ふりがな)	メールアドレス

ご協力ありがとうございました！

Key Concept

気候変動問題を考える際に、「中国やインドではなく、なぜ、先進国が率先して、CO₂の排出を削減すべきなのか?」「本当にCO₂が温暖化の原因なのか?」といった疑問をもつこともあるでしょう。

気候変動問題を考える際に、注目すべき点をまとめました。

歴史的責務

世界のCO₂の国別排出量は2011年現在、中国、アメリカ、ロシア、インド、日本、ドイツという順になります。こうした事実を考えると、先進国とともに、中国やインドなどの新興国も同様に削減の責務を負うべきだという声があります。気候変動に取り組むためには、先進国のみならず、新興国、途上国による取り組みが不可欠であることは間違いありません。気候変動枠組み条約には、「共通だが差異ある責任」の原則があります。これは、歴史的に見て、CO₂の排出を行ってきたのは現在の先進国であり、まずは先進国がCO₂の削減などの気候変動対策を率先してとるべきという考えです。

地球温暖化懐疑論と「予防原則」

人為的な諸活動によるCO₂排出が気候変動の原因か否かという点に関して、懐疑論があります。この議論に関しては2007年の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の報告書において、これまでの気温上昇が自然現象だけでは説明できないとされ、国際的な議論は、一応の決着を見たというのが大方の意見です。また、この件に関連して気候変動枠組み条約の原則の一つである「予防原則」があります。気候変動など科学的に実証に時間がかかり、その因果関係について、不確実要素があっても重大かつ不可逆的な影響がある事柄については予防的に対策をとるべきだとするものです。

気候変動とジェンダー

気候変動の影響を受けやすい立場にあるのが女性です。これは女性が多くの場合、社会的地位や権利を保障されていないことに起因します。オックスファムは適応をはじめとした気候変動対策にて、本当に支援を必要としている人々のニーズに応える対策を実現するためには、ジェンダーの視点を組み込まなければならないと考えます。

オックスファムは、2009年12月、国連と合同で、ベトナム農村部における気候変動の影響とジェンダーの関係に焦点を充てた調査を行いました。その報告書によると、昨今の農村部に見られる傾向の一つに、収入機会を求めた男性の離村が上げられます。これは、洪水などによる大規模な災害後に都市部での代替的収入源を確保する場合に加え、干ばつなどによる不作時にも見られる傾向です。結果、従来は男性が担っていた農作業も女性が行うこととなります。これは女性にとって、代替的な仕事としてではなく、通常の役割に対して追加的に生じるため、女性の負担を増加させています。(オックスファム・ジャパン ニュースレター2011 冬号より)

気候変動ワークショップ「カメラ婦人のお店はなぜ閉店したのか？」

セッション 1 配布資料

イギリス

多くの人が自動車を利用し、
交通量もかなり多い

自動車→【 】を排出
＜温室効果ガス＞

【 】

ガンビア

【 】
→ 海拔の低い地域のため影響を受けやすい

度重なる雨や台風、暴風
雨、干ばつなどの
【 】を引き起こす

増水の影響で、店が
二度の浸水

主要道路が損傷を受け、
乗用車やトラック・バスが
町まで入って来られない

昨年、落花生の収穫が
できなかった

来店者数の減少

【 】

カメラ婦人の店の閉店

Keywords:

異常気象／気候変動／海面の上昇／商品の不足／二酸化炭素

気候変動ワークショップ「カメラ婦人のお店はなぜ閉店したのか？」

セッション 1 配布資料(解答)

イギリス

多くの人が自動車を利用し、
交通量もかなり多い

自動車→【 二酸化炭素 】を排出
＜温室効果ガス＞

【 気候変動 】

ガンビア

【 海面の上昇 】
→ 海拔の低い地域のため影響を受けやすい

度重なる雨や台風、暴風
雨、干ばつなどの【 異常
気象 】を引き起こす

増水の影響で、店が
二度の浸水

主要道路が損傷を受け、
乗用車やトラック・バスが
町まで入って来られない

昨年、落花生の収穫が
できなかった

来店者数の減少

【 商品の不足 】

カメラ婦人の店の閉店

Keywords:

異常気象／気候変動／海面の上昇／商品の不足／二酸化炭素

気候変動ワークショップ「カメラ婦人のお店はなぜ閉店したのか？」

セッション 2 配布資料

【解決案の分類】

これらの解決法を以下の 5 つの指標から考えましょう。

◆実施される場所

イギリスで行われるもの

ガンビアで行われるもの

◆責任の所在

個人の責任によって行われるもの

政府の責任によって行われるもの

◆効果が現れるまでの期間

長期的なアプローチ

今すぐに効果ができるもの

◆効果の大きさ

大きな影響を与えるもの

小さな影響を与えるもの

◆気候変動の緩和

気候変動の進展が緩和されるもの

気候変動の緩和には寄与されない

【ディスカッション・トピック】

- ・ カメラ婦人のお店の閉店は、誰かの責任によるものなのか？
どのような因果関係が説明できるのか？
- ・ どの要因がイギリスで発生して、どの要因がガンビアで生まれているのか？
また、このように要因を分けて考えることは可能か？
それは日本とは関係のないことか？
- ・ このような出来事が将来起こらないために取りうる解決策はなにか？
どの解決策がイギリスで行われるべきで、どの解決策がガンビアで行われるべきか？
またそれは日本でも行われるべきか？
- ・ どの解決策が個人の努力で、どの解決策が政府や企業の責務によって行われるべきか？
- ・ カメラ婦人のような立場にいる人達を支援するために、あなたができる行動は何か？
何が、誰によって、どこで行われるべきか？
- ・ 世界の貧困層に対する気候変動の影響について、あなたはこのセッションから何を学べたか？

気候変動ワークショップ「カメラ婦人のお店はなぜ閉店したのか？」

セッション 3 配布資料

【適応と緩和】

緩和

二酸化炭素排出を減らし、気候変動を遅らせるための行動です。CO2 排出を抑え、気候変動の進展を抑えることは CO2 を多く排出する国としての責務です。

適応

気候変動の人々の生活への影響を少なくするための行動です。例えば家を洪水被害の及ばない高い場所に建てるなどです。適応は、命を守り、安全を提供します。適応だけでは気候変動の進行を遅らせることはできません。しかし、気候変動の原因となる CO2 を排出する先進国は、適応に必要な資金を支援する責務があります。

【6 カ国における一人当たり CO2 排出量の比較】

国名	一人当たりの排出量(トン)
ガンビア	0.25
バングラデシュ	0.28
中国	4.92
イギリス	8.97
アメリカ	19.74
日本	10.23

出展 http://unstats.un.org/unsd/environment/air_co2_emissions.htm (UDIAC/UN 2007)

【ダイヤモンド】

ダイヤモンドの優先順位は以下の通り。

1

2 2

3 3 3

4 4

5

【閉店の理由】カード

シャフラツは、毎日、学校へ 両親に車で送り迎えしてもらっている。	車は燃料を燃やすときに、 二酸化炭素を排出する。
ガンビア共和国の首都、バンジュールは 海拔0.5メートルの島にある。	ガンビアでは、今年の豪雨のため、 落花生の収穫ができなかった。
バンジュールは1本の道路で ガンビアの本土に繋がっている。	スパークブルックの交通事情は危険で、 幼いシャフラツは学校まで徒歩や自転車で通 うことはできない。
異常気象は、気候変動によって引き起こされ ていると考えられている。	観光客は冬の間、暖かい日光と砂浜を求め て、ガンビアへやって来る。
ガンビア共和国は西アフリカに位置しており、 海面上昇により危険にさらされる10カ国のう ちのひとつである。	バンジュールハイウェイの近くにある 交差点には最高裁判所がある。
バンジュールハイウェイは台風や雨で 損害を受けている。	シャフラツはパーミンガムにある スパークブルックの学校から 2キロほど離れたところに住んでいる。
先週、カメラ婦人の露店は 2度目の水浸しにあった。	二酸化炭素は気候変動を助長させる 温室効果ガスである。
スパークブルックの学校へ向かう朝のバスは しばしば、ひどい交通渋滞に巻き込まれる。	パーミンガムの交通量はほとんど自動車に よって占められている。
最近、自動車やトラックは、暴風雨のせいでな かなかバンジュールへ入って来られない。	気候変動の影響により海面が上昇している。
カメラ婦人は、バンジュールの最高裁判所の 外で会社員や観光客へナッツやオレンジを売 っている。	カメラ婦人は露店を たたまなければならなかった。

【解決策を考えよう】カード

シャフラツは、交通量のより少ない裏道に沿って学校まで歩くべきである。	バーミンガム市議会は、バス専用レーンや自転車専用レーンを設けるべきだ。
イギリス政府は、多くの人々の公共交通機関の利用を促すために道路税や燃料税を上げるべきだ。	イギリス政府は、電気自動車を購入する家族に対し、補助金を出すべきだ。
シャフラツやバーミンガム市民は、政府に企業に対する CO2 排出規制の法案成立を訴えるべきだ。	イギリス政府は、気候変動に関する国際会議において、貧困国を支援することに合意し、気候変動対策を講じるべきだ。
シャフラツやバーミンガム市民は家庭でできる CO2 の削減運動に参加すべきだ。	バーミンガムの子どもや家族は市内の交通量を規制するよう抗議するべきだ。
カメラ婦人は露店を別の場所に移転するべきだ。	ガンビア政府は、バンジュールに通じるより良い道路を建設するべきだ。
国連の農業専門家は雨に強い落花生の育成にガンビアの農民と取り組むべきだ。	オックスファムのような NGO は、カメラ婦人が新しい仕事に就けるように職業訓練などの手助けをすべきだ。
マイクロファイナンス銀行は、カメラ婦人が新しいビジネスを始められるように、小額のお金を貸すべきだ。	世界銀行はガンビア政府に、海面上昇からバンジュールを守る防波堤建設のためのお金を貸すべきだ。
ガンビアは、気候変動に関する国際会議で、貧困国を支援するように要求すべきだ。	

【一人ひとりができること】カード

<p>最善の解決策は、政府が気候変動対策により一層取り組めるように、国会議員に手紙を送付したり、署名を集めて提出することだ。</p>	<p>最善の解決策は、温室効果ガスの排出を抑えるために、公共交通機関や自転車用道路の整備を地方議会に訴えることだ。</p>
<p>最善の解決策は、気候変動によって人々がどのような影響を受けているのかについての劇などを、学校や地域社会で催し、より多くの人に現状を訴えることだ。</p>	<p>最善の解決策は、NGO を通じて、気候変動の影響を受けている人々に資金を送ることだ。</p>
<p>最善の解決策は、学校や職場などで環境影響に関する評価を実施し、より地球に優しい環境にするためのプロジェクトを実施することだ。</p>	<p>最善の解決策は、各国政府に気候変動に対する取り組みを求める、世界規模で行われている署名活動に参加することだ。</p>
<p>最善の解決策は、貧しい人々が気候変動の影響を受けにくい仕事に就くことができるよう職業訓練を行っている NGO を支援することだ。</p>	<p>最善の解決策は、ゲストスピーカーを学校や職場に招き、気候変動に関する討論会などを企画することだ。</p>
<p>最善の解決策は、今まで学んできたことをもとに、学校や職場までの交通手段や家庭でのエネルギーの使い方、より地球環境への負荷の低い製品の購入など、自分自身の生活についてこれまでと違った選択をすることだ。</p>	